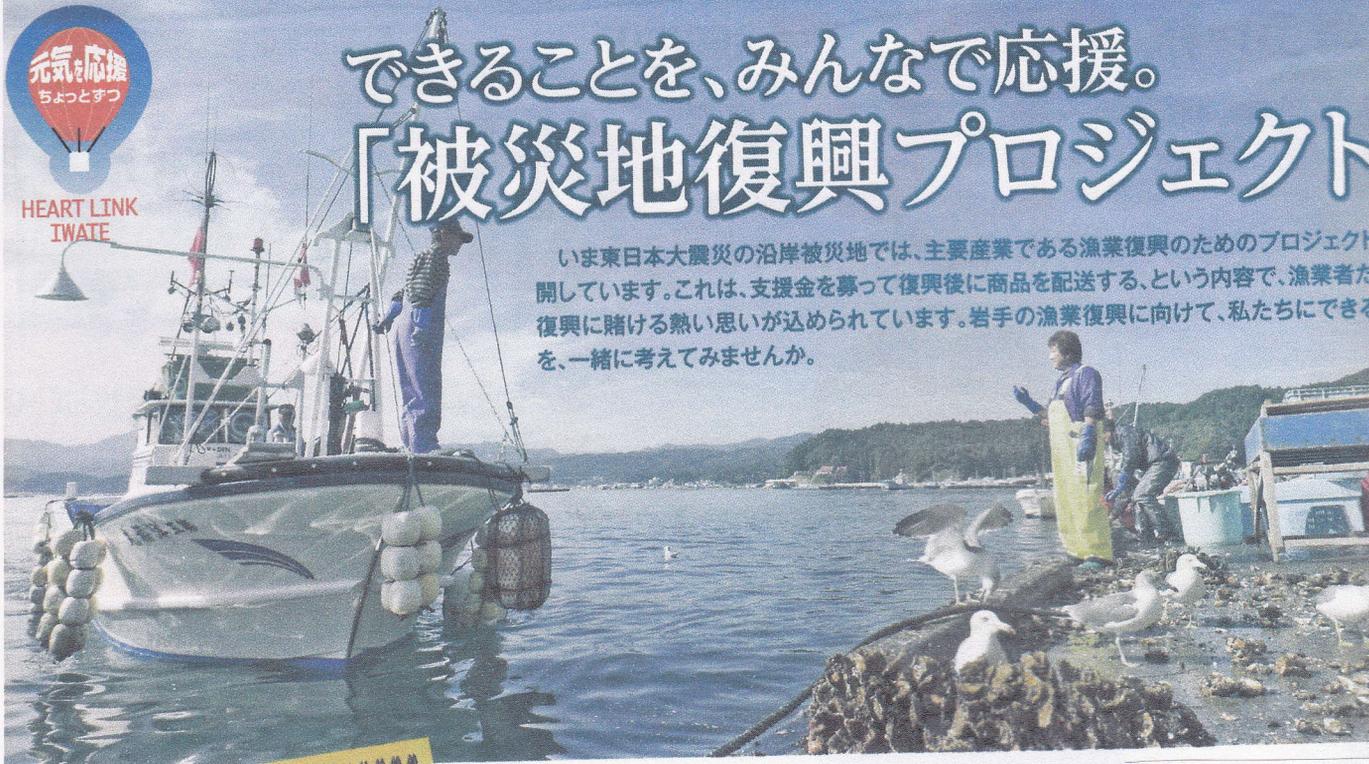


元気の応援  
ちよつとずつ

HEART LINK  
IWATE

# できることを、みんなで応援。 「被災地復興プロジェクト」

いま東日本大震災の沿岸被災地では、主要産業である漁業復興のためのプロジェクト  
開しています。これは、支援金を募って復興後に商品を配送する、という内容で、漁業者が  
復興に賭ける熱い思いが込められています。岩手の漁業復興に向けて、私たちにできる  
を、一緒に考えてみませんか。



**1口1万円で牡蠣・ホタテ&  
わかめの養殖業者を支援できる!**

三陸やまだ漁業協同組合大沢支所の  
「牡蠣・ホタテ&わかめ  
復興プロジェクト」

山田町は震災前、殻付きカキ(牡蠣)の生産量日本一を誇っていたカキの産地。その中心である大沢地区では、養殖いかだ約1600台のうち約1300台が流されてしまいました。

「養殖いかだも船も家も失った漁業者も多い。それでも、全国的に評価の高い殻付きカキを絶やしてはいけない、という思いから、気力をふり絞り、復興に向けて動き出



牡蠣・ホタテ養殖組合の佐々木功吉組合長(左)と鈴木昌幸さん

したんです」と話すのは、大沢地区の牡蠣・ホタテ養殖組合の組合長・佐々木功吉さんです。

震災後、佐々木組合長も含めた組合員は、がれきの撤去やいかだにつるすロープの補修など復興に向けたさまざまな作業に追われています。幸い残っていたいかだのロープを引き上げると、大粒の殻付きカキが残っていたので、取材日は、それらを出荷するための殻むき作業が行われていました。

「これが残っていたから、未来に向けた種付けもできる。再来年には、また質の良い殻付きカキができると信じています」。

目標は、80人の組合員で1000台の養殖いかだを設置すること。現在それに向けて、いかだを固定する



牡蠣の殻むき作業に精を出す大沢地区の養殖漁業者。残っていたいかだからは、こんなに立派な牡蠣が収穫できました

コンクリートブロックの設置が進められています。

一方、同じ大沢地区のわかめ養殖組合でも支援金を募集しています。わかめの養殖漁業者も現在、復興に向けて種付け作業などに精を出しています。こちらは来年春には、風味の良いわかめが収穫できそうです。



大沢地区のわかめ養殖組合の皆さん

## 牡蠣・ホタテ復興プロジェクト

- 内 容 / 1口1万円  
(復興支援+ホタテ20枚)
- ※牡蠣の収穫は再来年になるため、養殖施設が復旧した来年秋頃にホタテを送付
- 受付口数 / 限定200口
- 申 込 / 住所・氏名・電話番号・口数を記載したものをFAXで送付。その後、組合から振込先などをお知らせします
- FAX番号 / 0193-82-3053
- 問い合わせ / 080-1806-9616  
(漁協担当者・細川)
- 備 考 / 申込者は追加料金で収穫体験・試食が可能です

## わかめ復興プロジェクト

- 内 容 / 1口1万円  
(復興支援+早採り生わかめ2kg)
- ※生わかめの収穫は来年早春の予定
- 受付口数 / 限定200口
- 申 込 / 住所・氏名・電話番号・口数を記載したものをFAXで送付。その後、組合から振込先などをお知らせします
- FAX番号 / 0193-82-6449
- 問い合わせ / 090-7668-9959  
(組合長・柏谷)